

令和七年十二月号
《第百五十六号》

宗教法人岩國白蛇神社

しらへび

〒740-0017
今津町六丁目4-2
☎ 30-3333

12月

師走の祭典・行事案内

【月次祭】九時半

二日（火）

二十六日（金）

【例祭】十時

十六日（火）

【年越の大祓】十五時



秋晴れのすがすがしい朝を迎へ、今年は十七名の参列を得て、明治祭が斎行されました。最初に、国歌齊唱と桃山御陵を遙拝し、修祓・献饌・祝詞奏上と続き、「豊榮の舞」が奉納されました。そして、参列者全員で明治天皇の御製十首を奉唱しました。撤饌・宮司一拝・閉式の辞が述べられ、宮司から参列お礼の挨拶と短い講話がありました。「上農は草を見ずして草を取る・・・」

推薦図書

『日本人なら知つておきたい

日本の神話九選

後藤俊彦著（高千穂神社宮司）

致知出版社

千五百円十税

日本の人なら知つておきたい
あなたのうれし神の御前に日の御子の
いもせの契り結ぶこの朝
日の御子の契り祝ひて人々のようこぶ
さまテレビにて見る

「千鳥ヶ淵戦没者墓苑」

国のために命ささげし人々のことと思
へば胸せまりくる
(昭和三十四年)

【昭和天皇御製】(第一二四代)

「皇太子の結婚」

あなたれし神の御前に日の御子の
いもせの契り結ぶこの朝
日の御子の契り祝ひて人々のようこぶ
さまテレビにて見る

『日本人なら知つておきたい
日本の神話九選』

後藤俊彦著（高千穂神社宮司）
致知出版社
千五百円十税

日本の人なら知つておきたい
あなたのうれし神の御前に日の御子の
いもせの契り結ぶこの朝
日の御子の契り祝ひて人々のようこぶ
さまテレビにて見る

本居宣長の
『直毘のみたま

『直毘霊』を

読む（八）

其が中に、威力あ
り智り深くて、人を

なつけ、人の國を奪ひ

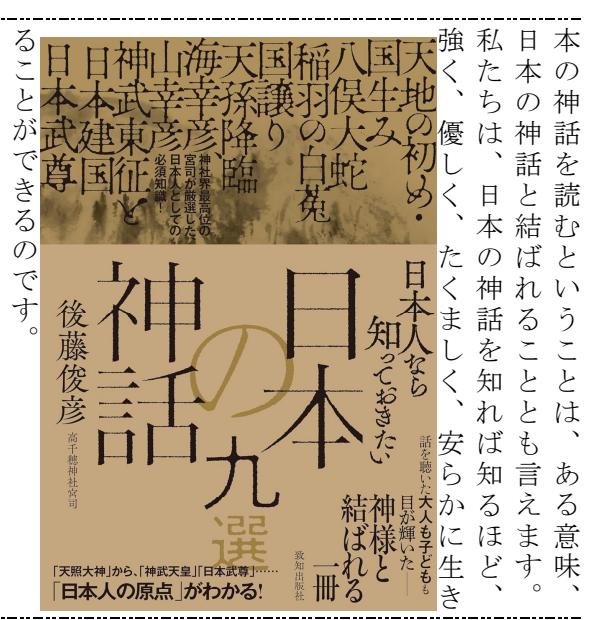
取りて、また、人に奪はるまじきことば

かりをよくして、しばし國をよく治め
て、後の法とも為したる人を唐土には
聖人とぞ云ふなる。



【明治祭】十一月三日

秋晴れのすがすがしい朝を迎へ、今年は十七名の参列を得て、明治祭が斎行されました。最初に、国歌齊唱と桃山御陵を遙拝し、修祓・献饌・祝詞奏上と続き、「豊榮の舞」が奉納されました。そして、参列者全員で明治天皇の御製十首を奉唱しました。撤饌・宮司一拝・閉式の辞が述べられ、宮司から参列お礼の挨拶と短い講話がありました。「上農は草を見ずして草を取る・・・」



【現代語訳】

そのやうな中で、威力があり智恵が深くて人を手なづけ、他人の国を奪ひ取つて、又、他人に奪はれないやうにすることばかりを徹底させて、しばらくの期間、国を見事に統治して、後世の規範ともした人を、支那では、聖人といふやうであるよ。

本居宣長と「古今和歌集」(七)

〔仮名序〕

和歌は、人の心を種として、万の言の葉とぞなれりける。世の中にある人、事・業しげきものなれば、心に思ふ事を、見るもの聞くものにつけて、言ひだせるなり。花に鶯、水に住むかはづの声を聞けば、生きとし生けるもの、いづれか歌をよまざりける。力をも入れずして天地を動かし、目に見えぬ鬼神をもあはれと思はせ、生きとし生けるは、歌なり。



始まり、あらがねの地にしては、すさのをの命よりぞおこりける。ちはやぶる神世には、歌の文字も定まらず、すなほにして、言の心わきがたかりけらし。人の世となりて、すさのをの命よりぞ、三十文字あまり一文字はよみける。(以下略)

岩波文庫「古今和歌集」より



旧年の御札・お守りのお焚き上げの受付は社務所で行つてゐますが、一月十日までに

ご持参ください。

なお、お飾りの燈(だいだい)や金属等は取り外してお持ちくださいませ。

それ以降は、他のお焚き上げ施設のある神社へお願ひします。

【臨時駐車場の案内】



恒例の年末大掃除を神社総代と保存会と一緒に七日(日)の八時半より一時間程度行ひます。

また、元日から四日間駐車場の案内係を募集してゐます。場所は神社周辺と旧消防署建屋周辺です。ご協力をお願ひ致します。

尚、二月末までは長山公園隣の旧消防署建屋周辺の空き地も駐車場としてご利用できます。



「神宮カレンダー」を九百円で授与しています。数に限りがありますので、お早めに。

神宮大麻(お伊勢さまの御札)を授与してゐます。(一本千円)

